項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	原発性肺癌に対して解剖学的切除施行後の術後再発・生存予後解析、および driver mutation 陰性群における予後因子の後ろ向き検討
	研究対象者	当院で 2010 年 1 月から 2025 年 12 月までに肺癌に対して区域切除以上（生検を除く）の手術を施行した方のうち包括同意をいただいた方
	研究目的	肺癌診療において、EGFR /ALKmutation 陽性症例に対しては分子標的治療の進歩により予後改善が得られている。一方で、これらの遺伝子変異を有さない症例では、依然として再発し急激な転帰を辿る症例が存在し、その臨床病理学的特徴や予後因子について十分な検討がなされていないため検討する。
	研究方法	当科データベースおよび診療録より、年齢、性別、組織型、病理病期、PET-CT で測定した SUVmax の値、リンパ管・静脈侵襲、リンパ節転移、がんの発生や進行に直接関わる遺伝子（ドライバー遺伝子）の異常、術後補助療法などを収集する。さらに保存腫瘍検体を用いて TP53/MDM2 に関連する遺伝子異常および蛋白発現を評価し、これらと術後再発および全生存との関連を解析し、新規予後因子を探索する。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西歴２０２６年１０月０５日～西暦２０３０年０３月３１日
	利用又は提供を開始する時期	[X]総長が研究実施を許可した日 [__] 西暦　　年　　月　　日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	[X]試料:	[　]血漿、[__]血清、[__]全血、[__]末梢血から抽出した DNA、 [X]病理検体(具体的に記載:腫瘍・正常肺の組織標本)、 [__]尿、[__]糞便、[__]唾液、[__]胸水、[__]腹水、[__]脳脊髄液、 [__]毛髪、[__]その他(具体的に記載:　　)
	[X]情報:	[X]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X]年齢、[__] 生年月日、[X]性別、[X]既往歴、[X]併存疾患、[X]外来日・入院日・退院日、[X]臨床検査値、[X]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[X]臨床所見・経過（予後追跡データを含む)、[__] ゲノムデータ、[__]看護記録、[__]その他(具体的に記載:　　)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	呼吸器外科・松山遼太郎
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	、なし
	外国へ提供する場合	国名と当該外国における個人情報保護に関する制度名または URL
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター・呼吸器外科・伊坂哲哉・045(520)2222 利用停止のお申し出は 2026 年 11 月 23 日までにお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります